

対象校No. 643
注4

学校コード F114310104883
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 研究科の設置
注1



注2

湘南医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程)

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人湘南ふれあい学園
令和6年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	学園本部
職名・氏名	シムブチョウ コバヤシカツイチロウ 事務部長 小林 勝一郎
電話番号	045-828-4322
(夜間)	045-828-4322
e-mail	gakuen@fureai-g.or.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

保健医療学研究科

保健医療学専攻	(博士後期課程)	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2. 授業科目の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
4. 既設大学等の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	12
5. 教員組織の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	・・・・・・・・・・・・・・・・	21
7. その他全般的事項	・・・・・・・・・・・・・・・・	26

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人湘南ふれあい学園

(2) 大学名

湘南医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒244-0806

神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(材ヤツヅヱ) 大屋敷 芙志枝 (平成6年4月)		
学長	(材ヤツヅヱ) 大屋敷 芙志枝 (平成27年4月)		
副学長	(キムラ ケン) 喜多村 健 (平成31年4月)		研究科長 (平成31年4月)
副学長	(テラモト アキラ) 寺本 明 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士(看護学) 博士(リハビリテーション)	保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	3年	3人	0人 2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	9人		【基礎となる学部】 保健医療学部 看護学科 保健医療学部 リハビリテーション学科 保健医療学研究科 保健医療学専攻(修士課程)

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	3人 () []	人 () []				
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	6 () []	() []				
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	6 () []	() []		2.0倍		倍
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	6 () []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	6 () []	() []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分が設定を予定していない場合は、「-」を選択し、
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	
	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	
	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、**留学生の状況について、内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、**春季入学とその他の学期**(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」**を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	6 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学研究科保健医療学専攻(博士後期課程)>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			専任教員等の配置						の基を教員教員(一助員以外)
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	医療倫理学特論	1通	2										兼1
	教育学特論	1通		2									兼1
	研究特論	1通		2									兼1
	保健福祉学特論	1通		2									兼1
	小計(4科目)	-	2	6									兼4
基礎科目	高等教育学	1通		2									兼1
	保健医療学基盤研究	1通		2		1							兼1
	保健医療学実践研究	1通		2		10	1						
	小計(3科目)	-		6		10	1						兼2
専門科目	健康支援ケアシステム	1前		2		3	0						
	健康支援ケアシステム	1後		4		3	0						
	地域生活ケアシステム	1前		2		4	2						
	地域生活ケアシステム	1後		4		4	2						
	生涯発達ケアシステム	1前		2		3			1				
	生涯発達ケアシステム	1後		4		3			1				
	小計(6科目)	-		18		10	2		1				兼0
	地域生活支援学特論	1前		2		5							
	地域生活支援学演習	1後	○	4		5							
	身体機能支援医療学特論	1前		2		4	2						
身体機能支援医療学演習	1後		4		4	2							
小計(4科目)	-		12		8	2						兼0	
特別研究科目	看護学特別研究	1通		10		7	1						
	リハビリテーション学特別研究	1通		10		7	2						
	小計(2科目)	-		20		15	4						
合計(19科目)	-		50		22	5		1				兼0	

卒業要件及び履修方法

【博士(看護学)】
共通科目から4単位(必修科目2単位、選択科目2単位以上)、基礎科目から2単位以上、専門科目内「看護学領域科目」から6単位以上(選択した特別研究に関する研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上)及び特別研究科目10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。

【博士(リハビリテーション学)】
共通科目から4単位(必修科目2単位、選択科目2単位以上)、基礎科目から2単位以上、専門科目内「リハビリテーション学領域科目」から6単位以上(選択した特別研究に関する研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上)及び特別研究科目10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			専任教員等の配置						の基を教員教員(一助員以外)
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	医療倫理学特論	1通	2										兼1
	教育学特論	1通		2									兼1
	研究特論	1通		2									兼1
	保健福祉学特論	1通		2									兼1
	小計(4科目)	-	2	6									兼4
基礎科目	高等教育学	1通		2									兼1
	保健医療学基盤研究	1通		2		1							兼1
	保健医療学実践研究	1通		2		10	1						
	小計(3科目)	-		6		10	1						兼2
専門科目	健康支援ケアシステム学特論	1前		2		3	0						
	健康支援ケアシステム学演習	1後		4		3	0						
	地域生活ケアシステム学特論	1前		2		3	2						
	地域生活ケアシステム学演習	1後		4		3	2						
	生涯発達ケアシステム学特論	1前		2		3			1				
	生涯発達ケアシステム学演習	1後		4		3			1				
	小計(6科目)	-		18		9	2		1				兼0
	地域生活支援学特論	1前		2		5							
	地域生活支援学演習	1後	○	4		5							
	身体機能支援医療学特論	1前		2		4	2						
身体機能支援医療学演習	1後		4		4	2							
小計(4科目)	-		12		8	2						兼0	
特別研究科目	看護学特別研究	1通		10		11	2						
	リハビリテーション学特別研究	1通		10		8	2						
	小計(2科目)	-		20		19	4						
合計(19科目)	-		50		22	4		1				兼0	

卒業要件及び履修方法

【博士(看護学)】
共通科目から4単位(必修科目2単位、選択科目2単位以上)、基礎科目から2単位以上、専門科目内「看護学領域科目」から6単位以上(選択した特別研究に関する研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上)及び特別研究科目10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。

【博士(リハビリテーション学)】
共通科目から4単位(必修科目2単位、選択科目2単位以上)、基礎科目から2単位以上、専門科目内「リハビリテーション学領域科目」から6単位以上(選択した特別研究に関する研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上)及び特別研究科目10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ② 授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

誤記による修正

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	18 科目	0 科目	19 科目	1 科目 []	18 科目 []	0 科目 []	19 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{19} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	湘南医療大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
保健医療学部	4	220	-	820	-	1.00	-	-	平成27	-				
看護学科	4	140	-	500	学士(看護学)	1.00	-	-	平成27	1-2年次 神奈川県横浜市 中区山手町27	令和4年度から入学定員変更(80→140)			
リハビリテーション学科	4	80	-	320	学士(××学)	-	-	-	平成27	3-4年次 神奈川県横浜市 戸塚区上品濃16-48				
理学療法専攻	4	40	-	160	学士(理学療法学)	1.08	-	-	平成27	神奈川県横浜市 戸塚区上品濃16-48				
作業療法専攻	4	40	-	160	学士(作業療法学)	0.95	-	-	平成27	同上				
薬学部	6	130	-	520	-	0.43	-	-	令和3	神奈川県横浜市 戸塚区上品濃16-10				
医療薬学科	6	130	-	520	学士(薬学)	0.43	-	-	令和3					
大学全体	-	350	-	1340	-	-	-	-	-	-				

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部/学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和5年)</p>	<p>完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規定の趣旨を踏まえた適切な運用に勤めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること</p>	<p>専任教員28名の平均年齢は59歳である。うち、定年規程に定める退職年齢を超えて在籍在籍する専任教員が9名である一方、新規採用と内部昇格により30代の教員を2名配置し、年齢構成を高年齢者に偏らないように配置した結果、45歳以下の教員が3名になった。今後も定年規程の趣旨に踏まえ、適切に退職教員の補充に努めていく。(6)</p>	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>履行中</p>
<p>認可時 (令和5年)</p>	<p>薬学部医療薬学科の収容定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>■ 入学者の状況 資料1「2023年度-2024年度 入試状況等比較」にある(表1)「2024年度湘南医療大学薬学部入学者の状況」にて分析を行った。本学薬学部の開設年度である令和3(2021)年度入学者数は34名(入学定員充足率0.26倍)、令和4(2022)年度入学者数66名(同0.5倍)、令和5(2023)年度入学者数は78名(同0.6倍、前年比118%)と増加を続けたが、令和6(2024)年度は志願者、受験者ともに減少した影響で、入学者数も62名(同0.47倍、前年比78%)と減少し、入学定員充足率も13%悪化した。この結果を受けて、同資料(表2)「入試区分別 出願者数」より、特に令和6(2024)年度の出願者数は151名(前年243名、前年比62%)と減少した。また、(表2)とあわせて(表3)「入試区分別 入学者数」の結果から、前年比較で学校推薦型(指定校型を含む)及び一般選抜型の区分で出願者数と入学者数を大きく減少させる結果となったこと【入試区分ごとの出願者数、入学者数の状況】 ※〔 〕は前年、()は対比%</p> <p>総合型選抜：出願者9、入学者7〔5(180%)、4(175%)〕 学校推薦型選抜：出願者26、入学者21〔43(61%)、30(70%)〕 一般選抜：出願者72、入学者27〔120(60%)、38(71%)〕 大学入学共通テスト：出願者42、入学者7〔72(58%)、6(117%)〕 このうち減少が最も大きかった入試区分は一般選抜であり、出願者72名(前年120名、対比60%)と大きく減少した。また、大学入学共通テストも出願者42名(同72名、58%)となった。</p>	<p>■ 今年度の学生募集計画 本年4月に実施した、資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、本学薬学部の志望理由として、「通学の利便性(13.1%)」、「専門分野への興味(11.4%)」、「教育環境・施設設備の魅力(11.4%)」「大学での教育内容の魅力(11.4%)」が挙げられた。 この結果を踏まえ、本学薬学部入学者の多数は、「薬学、化学への興味があり、自宅からの通学可能な範囲で整備された本学薬学部が目指す薬学教育、及び教育環境の下で薬剤師を目指したい」学生であることがわかった。これを踏まえて、以下の活動を実行する所存である。</p> <p>1. オープンキャンパスの改善 資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、「本学薬学部とグループ病院施設との連携」において「臨床実習」を魅力に挙げた入学者が85%いることを受け、今年度からオープンキャンパスで「病棟薬剤師を知る」というテーマで、隣接するグループ病院のふれあい東戸塚ホスピタル薬剤部と連携し、就業している「病棟薬剤師」を招き、病棟薬剤師の役割、実務と病院薬剤部を見学するイベントを毎月1回開催し、本学薬学部の臨床教育の魅力を高めている。</p> <p>2. 高大連携の強化 資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果における志望理由に挙げられていた「専門分野への興味(11.4%)」より、高校との学びの接続に一層力を入れ、その連携授業として</p>

(表6)「都道府県別の出願者状況」では、令和6(2024)年度入学における出願者数は、神奈川県が119名(前年170名、-51名)、東京都が16名(同38名、-22名)、千葉県が1名(11名、-10名)であった。また、(図7)「薬学部入学者 出身高校分布図(神奈川県)」より、令和6(2024)年度入学者の分布では神奈川県東部地域に集中しており、西部・県央地区からの入学者が全くなかったことがわかった。

一方、(表4)「資料請求者数」では、高校2年生からの資料請求数が増加している。令和6(2024)年度の資料請求数は1,453件(前年1,166件、287件増)であり、神奈川県内からは、703件(同596件、107件増)の資料請求があることから、上記(図7)の考察と照らし、より地域に密着した募集活動を徹底しなければならないことを確認した。さらに(表5)「オープンキャンパス参加者数」についても、参加者数が増加傾向にある。【オープンキャンパス参加状況(高校2・1年生)】

高校2年生：参加者137名(前年84名、53名増、対比163%)

高校1年生：参加者91名(前年64名、27名増、対比142%)

このことから、本学薬学部への志望(入学希望)は十分であると捉え、今後、神奈川県東部に加えて、西部・県央部からの受験生の募集活動を強化することで、入学定員である130名確保に期待ができるものと考えられる。

■教育内容の更なる充実

本学薬学部では、設置申請内容に沿ってカリキュラムを編成し、実践している。また、専任教員に変更が生じた場合は、適宜AC申請を通じて補充を行い、申請した組織内容を維持できる体制を整えている。

教員の質の向上に関わるFD活動を実施している。また、本学薬学部の教育水準を表すものとして、2024年4月に実施した本学薬学部の学生の全国模試結果を示す(資料2)。

本学薬学部の学生は、基礎系科目(受験科目：物理、化学、生物)

(表7)に關し、3科目すべてで全国平均を上回り、受験した大学29校中5位の成績であった。これは、薬学部設置から、1期生に対して教員が日々の学生の実情・ニーズを把握して、1年時から徹底的に寄り添った支援を続けてきた結果、基礎科目の学修が身につけてきた結果と考えている。ただし、医療系科目(受験科目：衛生、薬理・治療、薬剤)(表8)に関しては、1科目は、全国平均を上回る結果であったが、その他2科目は全国平均以下の成績で

「出張講義」(資料4)や「公開講座」(資料5)、「大学見学・体験会」に加えて、前年度に実施した桐蔭学園高校の生徒に対して実施した「研究室シャドウイング」を模範として、研究体験を実施し、本学薬学部の薬学、化学教育研究活動の普及と地域貢献活動を行う。同様に、「湘南鎌倉地区の高校生インターンシップ」においても企画・実施し、更なる本学薬学部の認知度向上に努めていく。現在、高大連携校は4校あり、「鎌倉湘南コンソーシアム」にも加盟していることから、今後も本学薬学部の教育内容に理解を示す高校と接触し、高大連携校の締結を増やし志願者を獲得していく(資料6)。

3. 広報活動

①デジタルツール情報発信

資料3「湘南医療大学2024年度新入生アンケート」の調査結果より、「大学での教育内容の魅力(11.4%)」より、各進学サイトを通じた情報発信が、神奈川県内外からの資料請求数を増加させるための有効なツールとして強化する。HPでは薬学部紹介動画を掲載し、実際の教育内容や受験対策、教育支援、研究紹介などを公開している。更に今年度は新規に「在校生の動画やインタビュー記事」を公開しており、継続して新しいコンテンツをHPの他、LINE、X(旧twitter)などのSNSにも同時に情報を掲載している。

さらに高校生が、高校入学後に新たな大学を知る方法(スタディプラス社：2022年8月26日付記事)の上位には、「SNSやYouTube、WEB等から知る」「学校の先生から聞く」であったが、その他に「親から聞く」「友だち、知人から聞く」といった項目もあった。高校生本人だけでなく、進学相談を受ける対象となる親御様、友人・知人、高校教員など多方面に向けて本学薬学部の魅力が伝わるコンテンツを企画し、発信していく。

②県内高校への広報活動の強化

資料1「2023年度-2024年度入試状況等比較」の(表4)「資料請求者数」、(表6)「都道府県別の出願者状況」、(図7)「本学薬学部の居住地分布」、及び資料7「薬学部入学者 出身高校分布図(神奈川県)」より、令和6(2024)年度入学者の出身高校の位置する最寄り駅や入学者の居住地、本学薬学部が神奈川県東部に位置していることと、通学の利便性等の理由により、JR東海道線・京浜急行線・JR横浜線の3路線を中心とした神奈川県東部の沿線に、本学薬学部の入学者が集中していることがわかる。今後の広報活動として、電車広告等の掲載は上記3路線をメインに、さらなる知名度を上げるとともに本学薬学部への志願者数の増加を目指す。

【認可】
遵守事項

科目担当教員だけでなく学修支援チームの教員が補講等でサポートしており、今後、学生が苦手としている科目・分野を伸ばしていく。

本学薬学部は、学生間の距離も近く、講義の重点ポイントの確認、復習の機会を持っており、「このような学生同士が同じ志を持って意識を高めあう環境作りも重要だと本学の教育活動の評価を今後も外部に発信して、学生募集の一理としたい。」(6)

また、本学薬学部の学生募集状況の課題の一つとして、現在も認知度の低さが挙げられる。その対策として、令和4(2022)年度より、神奈川県内の公立私立高校(142校)の近隣の電柱に本学薬学部の広告を継続して掲載している。毎日の通学の景色の中に「湘南医療大学」の広告を掲載することで、高校生に印象を残し、本学薬学部の認知度向上の一助となると考えている。③公開講座・出張講義の拡充

上記にある薬学部入学生アンケート調査結果(資料3)における志望理由に挙げられていた「教育環境・施設設備の魅力

(11.4%)」及び「大学での教育内容の魅力(11.4%)」より、本学薬学部の教育内容を伝える機会として、公開講座を学内での実施だけにとどまらず、各地域の会館等を使用し、神奈川県を中心に近隣の東京都、静岡県の計20か所(9月まで)で展開する計画を立てている。また、教育内容の魅力の発信として、見込みのある高校等へ出張講義を行う。特に、入学者居住地の多くを占める神奈川県内の4.新しい入試制度の導入

①特別指定校推薦

学校推薦型の入試区分の受験生数を増やすために、令和7(2025)年度入試から特別指定校推薦を導入する。学力優秀高校、薬学部進学実績校、並びに過年度の本学薬学部への出願者数の多かった高校を合わせて133校を指定した。本入学試験で合格した入学者は、授業料が全額免除となる。この入試区分では、30名の確保を目標として

②特待生制度

本学薬学部の競合校の一つである横浜薬科大学では、学費を減免する特待生チャレンジ選抜を実施している。本学薬学部においても、成績優秀かつ経済的に苦しい受験生を対象に、年間授業料140万円全額または半額にする学費減免制度「特待生制度」(資料8)を令和6(2024)年度入試に導入した。結果として、定員19名に対して15名の入学者があり、定員確保に向けて一定の成果を出している。

この結果を受け、薬学を学びたい意志があっても、修業年限6年間と長く、また理系科目の学修や実験等で忙しい薬学部では、アルバイト等も難しく学ぶことを諦めてしまう高校生も多数存在すると予測されたため、令和7(2025)年度入試では、すべての入試区分において、「授業料半額免除」、「授業料全額免除」の特待生制度利用を希望できる制度を継続し、さらにこの制度による定員枠を最大50名に拡大することにした(資料9)。

③外国人留学生入試
今回の「指摘事項（是正）」に伴い、開設年度より定員充足率を達成していない状況を改善すべく、従前からの入試制度に加えて令和7（2025）年度より外国人留学生の募集を行い、5名程度の外国人留学生の確保に努める。成績上位者には特待生制度を導入し、優秀な学生の入学辞退を避けるべく定員を確保する。なお、導入にあたっては、文部科学省発信（6高参国第4号）の「外国人留学生の適切な受入れ及び在籍管理の徹底等について（通知）」を遵守し、安易に留学生を受け入れることなく、真に修学を目的とする留学生への教育指導及び適切な在籍管理を行う（資料10）。

5. 入学定員に関する検討
湘南医療大学では、平成27（2015）年の開学時から、業務改善活動の一環として毎月PDC活動を取り入れ、入学定員を充足させるために、高校訪問、高校ガイダンスへの参加、オープンキャンパス、出張授業、授業改善などを積み重ねている（資料11）。

令和6（2024）年4月入学者まで、本学薬学部の入学定員充足率は100%を達成できていないが、資料1の（表4）（表5）の結果のとおり、次年度・次々年度に大学受験を検討する学年（高校2・1年生）の本学薬学部への興味・関心は高まっているものと推察でき、また、令和5（2023）年度の1年間における、本学薬学部に対する高校からのガイダンス参加依頼は32件であったが、すでに令和6（2024）年4～5月の2ヶ月間で25件の依頼を受けている。これも、ガイダンス参加依頼を受けた高校で、本学薬学部への関心と期待が寄せられている客観的な数字であると推認できる（資料12）。

したがって、令和6（2024）年度入試では、出願者数・入学者数がともに減少したが、この現象は今後も続くものではなく、令和7（2025）年度入試以降は、志願者数を増加させられることが可能と推察される。

資料13では、過去3年以内に入学定員を「減少」に変更した他大学の状況をまとめた。1大学を除き、入学定員減の大学は、比例して志願者数も減らしていることが読み取れる。これは、入学定員減に伴う入試倍率の上昇を受験生が嫌がったこと、定員減による大学の経営難の印象・想像が難くないこと、などが考えられる。

以上の点から、本学薬学部の学生が、薬剤師国家試験や就職の実績を提示できる前に、入学定員を「減少」に変更してもマイナスな要素が多いと判断している。（6）

以上

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。
【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）（6）」と記載してください。
【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学研究科保健医療学専攻(博士後期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更があったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>①実施体制</p> <p>a委員会の設置状況 (変更なし)</p> <p>b委員会の開催状況 FD委員会は学長(委員長)を含め、令和5年度は下記体制で構成・開催した。 湘南医療大学 FD委員会</p> <p>保健医療学部 5名 2回 (4/12、2/28) 薬学部 7名 3回 (4/12、9/13、2/28) (大学院教員は学部と兼務している)</p> <p>c委員会の審議事項等 (変更なし)</p> <p>②実施状況</p> <p>a実施内容</p> <p>【保健医療学部】 (看護学科)</p> <p>①教育改善検討会の実施 ②教育の質的向上への取り組み ③教育方法の検討 ④実習評価の改善 ⑤指導者研修会の実施</p> <p>(リハビリテーション学科理学療法専攻)</p> <p>①教育の質的向上 ②学力低迷者への支援 ③休退学者防止 ④初年次教育 ⑤新カリキュラムへの対応</p> <p>(リハビリテーション学科作業療法専攻)</p> <p>①学力低迷者への支援策、教育力向上 ②休退学者防止 ③受験生の獲得 ④その他</p> <p>【薬学部】 (医療薬学科)</p> <p>①薬局実務実習の実体講義 ②薬学教育モデル・コア・カリキュラム改定に関する講演会実施 ③授業評価アンケートに基づく分析</p> <p>b実施方法</p> <p>【保健医療学部】 (看護学科)</p> <p>①教育改善検討会の実施 ●FD研修会の実施</p> <p>②教育の質的向上への取り組み ●FDマップ運用マニュアルに基づいた個々人の教育力向上に向けた取り組みの実施・評価 ●新任教員を中心とした教育プログラムの検討</p>

③教育方法の検討

- ICT活用による教育方法の検討
- ・ICT・Link・Teacherの検討
- ・ICT機器の基本操作や活用方法に関する研修会

④実習評価の改善

- Google formsでの実習評価アンケートの運用
- 科目責任者による実習総合評価報告書運用方法の検討

⑤指導者研修会の実施

- 実習指導者研修会の実施

(リハビリテーション学科理学療法学専攻)

①教育の質的向上(14件)

- 効果的なチューター活動に関する研修
- ティーチング・ポートフォリオに関する研修(2件)
- 多学年合同の理学療法演習に関する研修
- 生成AI(ChatGPT)に関する研修
- 教育のパラドクスとピグマリオン効果に関する研修
- 学生が理解しやすい授業に関する研修
- 臨床教育学・教育心理学・青年心理学からみた臨床実習指導とコミュニケーションに関する研修
- ポーランドの大学が取り組む教育内容・方法等、研究。研修の組織的活動に関する研修
- チーム医療論に関する研修
- 授業参観(4件)

②新カリキュラムへの対応(13件)

- 総合臨床実習Ⅰ事後演習・事後評価と総合臨床実習Ⅱ事前評価に関する研修
- 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの実習後評価に関する研修
- 理学療法士・作業療法士養成施設専任教員の要件に関する研修
- 臨床実習指導体制と学生支援に関する研修
- 臨床実習制度の理念と概要に関する研修
- 教育原論・人間関係論に関する研修
- 臨床実習指導者のあり方—ハラスメント防止意識の向上—に関する研修
- 臨床実習の到達目標と修了基準に関する研修
- 診療参加型臨床実習における評価に関する研修
- 臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案に関する研修
- 臨床実習概要と実施計画に関する研修
- 臨床実習報告に関する研修
- 実習前学内評価としてのOSCEに関する研修

③その他(8件)

- 理学療法学専攻における2023.3月の結果検証および4月のPD
- 理学療法学専攻における2023.5月の結果検証および6月のPD
- 理学療法学専攻における2023.7月の結果検証および8月のPD
- 理学療法学専攻における2023.8月の結果検証および9月のPD
- 理学療法学専攻6期生に対する国家試験対策に関する研修
- 理学療法学専攻における10月の結果検証および11月のPD
- 理学療法学専攻における12月の結果検証および1月のPD
- 学生募集活動に関する研修

(リハビリテーション学科作業療法学専攻)

①学力低迷者への支援策、教育力向上(10件)

- 国家試験対策のための教材の工夫についての研修(2件)
- 国家試験対策の在り方の研修(4件)
- 授業参観(3件)
- 地域を巻き込んだ教育機会の創出についての研修
- 学園祭を活用した教育機会の創出についての研修

②休退学者防止(7件)

- チューター業務の振り返りと検討
- チューターの在り方についての研修(4件)
- 出席状況の芳しくない学生への対応方法についての研修(1件)
- 障害のある学生への対応方法についての研修(1件)

③受験生の獲得（5件）

- 高校訪問と受験生獲得のための在り方研修（1件）
- 高校での講義と受験生獲得のための在り方研修（4件）

④その他（6件）

- 作業療法学専攻における2023年度FD計画の策定
- 理学療法士・作業療法士養成施設専任教員の要件に関する研修
- 生成AIに関する研修
- ティーチング・ポートフォリオに関する研修
- PT・OT・ST養成施設教員等講習会の報告
- 海外におけるFD活動の状況についての研修

【薬学部】

（医療薬学科）

- ①薬局実務実習の実体講義
- ②薬学教育モデル・コア・カリキュラム改定に関する講演会実施
- ③授業評価アンケートに基づく分析

c開催状況（教員の参加状況含む）

【保健医療学部】

（看護学科）

①教育改善検討会の実施

- FD研修会の実施

2024年1月31日10：30～16：10

『わかりやすい省察的実践』-実践・学び・研究をつなぐために-

星槎大学、大学院教育学研究科特任教授 三輪建二先生

経験から学ぶ省察の重要性が多く看護学教育に導入されている。そのため、FD研修会を実施し、省察的実践・学び・研究をつなぐための活用法について検討した。

また、研修後のアンケート調査結果は、省察を看護学教育へ取り入れる重要性を改め理解するとともに省察を教育活動に組み入れる具体的な方法を検討していきたい等の結果が得られた。

【評価】

次年度に向けて教育改善に向けて「省察」を教育活動に組み入れる工夫を行っていけると期待できた。

②教育の質的向上への取り組み

- FDマップ運用マニュアルに基づいた個々人の教育力向上に向けた取り組みの実施・評価

2022年度看護学科FDマップを作成し、今年度は主にFDマップ運用マニュアルを基にその活用方法を検討した。看護学科教員（准教授、講師、助教、助手）は、FD自己評価票にFDマップ各項目（基盤、教育・研究・組織マネジメント、社会貢献）に年度目標、計画を記載し、FDマップを面接に活用した。自己点検と評価を通して自己課題に気づき、今後のキャリアパスに反映できるよう取り組みを行った。

【評価】

FDマップを活用し面接を実施できた。今後、利用しやすいか効果的かなどのアンケート調査も継続する。

●新任教員を中心とした教育プログラムの検討

2023年8月30日 10：00～12：10

『若手教員を対象としたワークショップ』

大学教員の教育力の教育力向上のための基準枠組み（FDマップ）活用の一環として、若手看護教員（助教・助手）を対象に、教員として必要な実践力（教育力、研究、組織マネジメント、社会貢献）についての自己の課題を明らかにし今後の実践力向上に向けた展望を検討する目的で、研修後アンケートの結果では、本研修は、今後の大学教員として役立つものであったとの解答（同じ職位の先生とコミュニケーションが取れ、共感できた・解決策がわかった・新たな発想も生まれた）が多かった。良い刺激になった等の結果が得られた。

【評価】

本年度の結果から、今後若手教員向けのワークショップは、定期的実施する必要があると評価する。それと同時に本学入職した新任教員及び若手看護教員向けの専門領域を超えた教育プログラムの可能性について検討する。

③教育方法の検討

- ICT活用による教育方法の検討

・ICT・Link・Teacherの検討

本学内の教員でICTにたけている教員2名を選出し、研修を行っていくことでリンクティーチャーを増員していく。

・ICT機器の基本操作や活用方法に関する研修会

2024年3月12日

一部10：00～12：10 17名参加

二部13：00～15：10 15名参加

Zoomの基本的操作、双方向授業への工夫（Google form・Slideの活用）

【評価】

リンクティーチャーについては、人材確保の課題もがあり、再検討する。ICTの活用方法に関するセミナーは大変好評であり、今後も継続して実施する。

④実習評価の改善

- Google formsでの実習評価アンケートの運用

臨地実習においては、9科目で対象者669名、回収数524名（回収率78.2%）と実習評価アンケートが定着してきている。科目によっては、回収率が60%以下のものもあり、アンケートの提示方法を検討する必要がある。

【評価】

回収率が低い科目については実習アンケートの提示方法を検討する。学生が不満に思う内容として記録のボリュームが多いことであった。課題を各領域に提示し改善につなげたい。

- 科目責任者による実習総合評価報告書運用方法の検討

昨年度より実習評価アンケート結果を受けて科目責任者による総合評価報告書をまとめて頂いている。多くは、アンケート結果を分析し次年度に改善すべき点や工夫を具体的に提示されている。

【評価】

このまま継続していきたい。

⑤指導者研修会の実施

●実習指導者研修会の実施

参加者：97名（実習施設53名うち会場6名zoom47名、教員44名）

（リハビリテーション学科理学療法専攻）

1) 全体的に見て、FD活動の開催回数および内容等における実績から、本年度におけるFD活動は良好であったと考えられる。

2) その一方、一部の入学者の学力低下が顕著となる中、「初年次教育」に関するFD活動が少なかった点、および、学力低迷者への支援・休学者の防止へのさらなる重点化の必要性が課題となると考えられる。

（リハビリテーション学科作業療法専攻）

今年度は、チューターの在り方の見直しを行い、各チューターによる取組の差異が生じることを是正するために、チューターごとに学年を超えて集まる機会を定期的に設けてきた。それにより、学年を超えたコミュニケーションの機会が増し、低学年にとっては学修方法や大学生活における情報を得ることができ、休退学者減少に寄与できたと考える。また、国家試験対策についても、個別的・丁寧な指導を行いつつ、早期より使用する教材についての検討を行い、スマホで隙間時間を用いて勉強可能な教材を導入したことも相俟って、国家試験100%合格のための教育力向上に繋がったと考える。受験生の獲得のためにOT専攻のアピールとなる教育体制の充実の検討を要したが、地域を巻き込んだ教育機会や学園祭を活用した教育機会の創出等を行ったことにより、本学OT専攻のアピールにも寄与できたと考える。

⑥大学全体におけるFD・SD研修会【令和5年度実施分】

・4月26日(水)、6月19日(日)、8月23日(水)、10月25日(水)、12月20日(水)、2月18日(日) の計6回

・参加状況：教員118名、職員26名

【薬学部】

（医療薬学科）

①薬局実務実習の実体講義

学生の態度教育、注意すべき点、薬局業務の重要点、基礎系で重要な知識、臨床で確実に覚えるべき点などをまとめて教員が学び、学年ごとの指導に生かした。

・実務実習事前学習指導において 学生指導の結果 学生の80%以上がS評価

・薬学部1年 基礎系本試験合格率

2021年度 87.9%

2022年度 88.9%

2023年度 89.6%

・薬学部3年 本試験合格率

2022年度77.6%（2年時）

2023年度 78.3% 1期生の意識の向上あり

FD研修によって、教員が新たな現場の教育を知ること、教育から学生のモチベーション向上、基礎と臨床の重要点の教育につながった。第3者評価における教員の学びとして記録できた。

②薬学教育モデル・コア・カリキュラム改定に関する講演会実施

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改定について（帝京大学、小佐野博史先生）

R4改定のカリキュラムの重要点と、国家試験の傾向、教育の対策、臨床教育の重要性、CBT講義や演習の対策などの講演があり、実際に3年生の教育や4年生の薬物治療Ⅰ、Ⅱの授業において疾患教育、検査について強化した教育内容を実践した。また、基礎の生化学などの強化においても疾患につながる内容を取り入れている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

<p>① 体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容も各区分を踏まえた委員構成で</p> <p>ある</p> <p>b 委員</p> <p>c 委員</p> <p>d その他</p> <p>② 審議状況</p> <p>a 審議</p> <p>記入例)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地・ 産 <p>b 教育課</p> <p>c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況</p>	<p>該当なし</p>
--	-------------

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教育課程の編成：1年次の教育課程は変更なくすべて開講・実施している。

教員組織の編成：設置計画時は28名の専任教員でしたが、開設時に27名の専任教員が就任し、編成されている。

履修指導：入学式後に全員にオリエンテーションを行い、履修指導も併せて行われている。

施設・設備：博士後期課程専用の院生研究室を設置し、研究環境を整備している。

入学者選抜：令和6年度入学生入試は、6名の受験者があり、6名が合格し、入学者は6名で入学定員充足率は200%でした。

自己点検・評価：令和10年に日本高等教育評価機構の評価を受ける準備を進めている。

情報の提供：博士後期課程の教育理念や特色、教員等について、リーフレットやホームページで情報提供をしている。

教員の資質の維持向上：学生授業評価アンケートを通じて授業改善が行われている。また、院生研究費を支給し、関連の学会等への参加も促進している。

上記により、設置認可時の目的である「高度な専門性を身に付けた研究者、高度専門職業人、大学院教員の養成」する教育は、3つのポリシーに反映され、教育理念に基づき、学生の育成と質の向上に取り組み、その使命と目的を果たしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和6年10月31日 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和3年11月に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を実施し、適合の判定を受けた。
- ・令和6年10月に評価機関（一般社団法人リハビリテーション教育評価機構）を受審予定。
- ・令和10年に評価機関及び（薬学教育評価機構）の2回目の受審予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。